

〔*九条の会ほか様々な団体・集会にmailあるいはfaxした文書の一部です〕

憲法の危機が進行中です。確実に深刻の度を増しているように感じられます。

これには、政権党の術策によってのほか、「国民の皆さん」の右傾化もだいぶ作用しているようで、実は無関心というひとがたくさんいることにたびたび驚かされます。

基本的人権、民主主義、国民主権、平和主義など、この七〇年の間に、私たちの生活のなかで折角あたりまえになった大切な憲法の理念を、うかうかと政権のやることを他人事のように眺めているうち、突如として、ある日一挙に失ってしまうかもしれません。2015年9月19日未明に国会という場で行われた非道が、またしてもなんら恥じることなく繰り返されて。

出版人として行動を起すべきと思い、2016年6月に、宮沢俊義著 **あたらしい憲法のはなし 付載七篇** を復刊しました。

わかったつもりになっていた憲法のことを、少年少女にも通じる言葉で明快な理解へと導いてくれた本で、著者の憲法と政治に関わる学術論文をあれこれ読んでみますと、一見難しそうな語やフレーズ、外国語はあるにしても、文章が晦渋で意味不明といったところはほとんど無いと言ってよく、学問的にきちんと究明しているからこそ平易に言い表せているのだな、と思われました。そこで、本書では、オビにも書きましたが、「本書はいわば二部構成で、主として『日本の将来をしょって立つ』『少年少女の皆さん』に向けて書かれた、新憲法つまり現行憲法についての『あたらしい憲法のはなし』〔この部分の本文活字は付載収録文のものより大きくなっています〕のあとに、これをひろく補足するものとして、じっくり向い合えば一段深い真実が読み取れる『立憲主義』ほか、政治上、憲法上の諸問題に関する著者の論考を選び抜いて、『付載』と」しました。つまり、初めのなだらかな進みを経て、この一冊のなかでステップアップしてゆくことが可能になっています。

皆さんのお子さん、お孫さん、そしてときに皆さんご自身にとっても、現下の政権党による目眩ましや、強引かつ専横なふるまいを見抜き、立ち向う眼識と決意を堅持するうえで、心づよい手がかりとなるものがここにあります。